

名古屋市立大学におけるH28年度の実践的な手術手技研修の実施実績と課題分析



植木 孝俊  
 名古屋市立大学大学院医学研究科  
 統合解剖学分野、臨床医療デザイン学分野、  
 先端医療技術イノベーションセンター

H28年度の研修開催実績

消化器外科	3回 (7月、2月、3月)	4体
麻酔科	1回 (10月)	4体
腎泌尿器科	1回 (11月)	2体
脳神経外科	4回 (12月×2、1月×2)	9体
呼吸器外科	1回 (1月)	2体
整形外科	3回 (2月×3)	7体
形成外科	1回 (3月)	2体
口腔外科	1回 (3月)	2体

総計 15回 32体 (Thiel法)

愛知

2017年1月13日

名市大に国内最大規模の先端医療研修拠点 献体で手術鍛錬

名古屋市立大は、同市瑞穂区の桜山キャンパスに先端医療技術イノベーションセンターを開校した。献体（遺体）を使い内視鏡による手術などの技術向上を図る研修用のサージカトルレーニングルームを設けた。献体を使う研修施設では国内最大規模といい、2月に稼働予定。12日、報道各社に公開された。

患者負担が少ない内視鏡を使った手術が増え、従来方法より難易度が高く医療事故防止が課題。国が進める技能研修の拠点づくりの一環で整備された。

同センターは、付属病院に隣接する医学部基礎教育棟六階。四百平方メートルのスペースに献体百体を収容できる保管室と、手術台五台分を同時に並べられるトレーニングルームを設けた。整備費は約一億五千万円。内視鏡機器二機、X線透視装置などを配備。切除手術、骨格の変形を治す手術などのトレーニングを複数同時に行える。

同大によると、献体を使う手術研修専用施設は全国二番目で、規模は最大。同大の医師もこれまで、学生が使う解剖実習室の空き時間に献体で練習していたが、専用ルームでは回数を増やし、最新設備を使う実際の手術室に近い環境で質の高い練習が可能になる。

中部地方の研修拠点だが、エリア外も受け入れる方針。献体を使う練習を通じ、新たな治療法開発、医療機器の開発にもつなげる考え。植木孝俊センター長は「難しい手術が増え、立ち会うだけで学び取るのは容易でない。手術練習後に解剖分析し技術を深めることもできる」と話す。

(室木泰彦)



全国最大規模の手術練習設備がある、サージカトルレーニングルーム＝名古屋市瑞穂区の名古屋市立大

消化器外科

- ・腹腔鏡下 脾合併尾側膵切除
- ・腹腔鏡下 膵頭十二指腸切除 など

3回、4体

講師8名 (名市大病院、国立がん研究センター東病院)  
 受講者10名 (愛知県・三重県・千葉県 6病院)

麻酔科 (日本区域麻酔学会認定セミナー)

- ・超音波ガイド下 末梢神経ブロック  
 (腕神経叢・大腿神経・内転筋管・閉鎖神経  
 ・坐骨神経・腰神経叢・胸部傍脊椎・腰方筋ブロック)

1回、4体

講師6名 (名市大病院、香川大病院)  
 受講者24名 (愛知県・香川県 3病院)



### 腎泌尿器科

- ・腹腔鏡下膀胱全摘除術
- ・伏臥位後腹膜鏡下腎摘除術

1回、2体

講師3名（名市大病院）

受講者9名（愛知県 4病院）

### 脳神経外科

- ・頭蓋内病変への内視鏡下到達法（経鼻前方・前方・側方・後頭経テント到達法）

4回、9体

講師7名（名市大病院、名古屋第二赤十字病院）

受講者22名（愛知県 3病院）

5

### 呼吸器外科

- ・肺尖部胸壁浸潤肺癌切除シミュレーションとしてのtransmanibrial approach変法による胸膜頂の解剖学習
- ・心嚢内肺動静脈確保のための心嚢内解剖学習

1回、2体

講師3名（名市大病院）

受講者3名（愛知県 2病院）

### 整形外科

- ・胸腰椎XLIF

3回、7体

講師5名（名市大病院、江南厚生病院、名古屋第二赤十字病院）

受講者13名（愛知県・宮城県・福島県・茨城県他 13病院）

6



7

### 形成外科

- ・胸腔鏡下漏斗鏡手術

2回、5体

講師6名（名市大病院・名大病院）

受講者15名（愛知県・三重県・岐阜県 6病院）

### 口腔外科

- ・顎変形症に対する顎骨切り手術
- ・顎関節鏡による上関節腔手術

1回、2体

講師2名（名市大病院、愛知学院大病院）

受講生8名（愛知県 2病院）

8



- ### 手術手技研修の継続的な実施のために解決すべき課題
1. 施設整備、機器購入などのための費用の捻出  
 (厚労省などからの人材育成に向けた公的補助、企業などからの寄附)
  2. 施設・研修会運営のための財源確保  
 (厚労省事業の恒久化、参加費の徴収、企業の協賛・寄附、大学の教職員増員)
  3. 地域医療機関との連携強化  
 (人的交流の拡大、トレーニングシステムの体系化、学会との協働、専門医・認定医制度との連関)
  4. 医・歯連携の構築  
 (口腔外科分野での研修会開催、歯科医療機器の導入)
- 10